

1 学校教育目標

○よく考え進んでやりぬく子 ○あかるく強くたくましい子 ○みんな仲よく助け合う子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○基礎学力、道徳心、基礎体力を確実に高めることができる学校 ○あたりまえのことをあたりまえに実践できる学校 ○児童、保護者、地域、教師が協働し、安全、安心で皆から愛される学校
○児童・生徒像	○友達を大切にし、相手の立場を考えて行動し、どのような人とも公平公正に関わることができる児童 ○様々なことに挑戦し、目標に向かって努力し、課題解決しようとする児童
○教師像	○子供たちに深い愛情を注ぎ、いけないことはいけないと毅然とした指導ができる教師 ○教師仲間同士協力し、助け合い、鹿一小の子供たちの成長を伸ばすことができる教師 ○子供と共に協力し、授業力向上のために努力を惜しまない教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○地域が協力的であり、「私たちの町の学校」という雰囲気をもっている。そのため子供たちが校外で遊んでいる場面でもいけないことをしっかり指導してくれ、子供たちを温かく見守ってくれている。

○子供たちはとても素直であり、教師の指導に従順に従って行動できる反面、教師の指示を待っているのみで、自ら考えて行動することができる児童が多いとは言えない点が課題である。時に教師側が過干渉になり、児童の思考を止めてしまうことがある。

【前年度の成果と課題】

重点的な取組事項ー1 学力の向上 ○基礎学力向上策を充実させ、定着を図る→区調査通過率 80%以上＝R6 年度2科達成 単元テスト通過率 80%

重点的な取組事項ー2 授業力の向上並びに学力の向上 ○若手研、主任研を実施し一定の授業力向上を図る。学力向上は継続課題。

重点的な取組事項ー3 幼保小中の連携 ○連携の推進と円滑な接続をめざす。

重点的な取組自校ー4 **創立60周年に向けて 魅力あふれる鹿一小 ～自分が大切にされていることを実感できる学校～**

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	授業力の向上、体力の向上、生活習慣の確立	○	○	○	○	○
3	幼保小中の連携と豊かな心・道徳心の向上	○	○	○	○	○
4	創立60周年 魅力あふれる鹿一小 ～自分が大切にされていることを実感できる学校～		○	○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
・区調査、単元テスト 80%以上を学級の 80%以上を達成する		・区調査通過率 80% ・単元テスト 80%以上		自己評価の際に記入					
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業の充実	全学年	年間	・足立スタンダード虎の巻に基づいた児童が主体的に活動できる授業を行えるようにする。	日常の観察	自己申告面談	自己評価の際に記入		
2 継続	パワーアップタイム	全児童 算数 国語	朝の時間	・各学級、専科教員が基礎基本の習熟を図る。	・小テストでも得点確認	80%以上			
3 継続	プレイバックタイム	CD 層児童 算数 国語	放課後	・CD 層の児童を放課後に基礎基本の習熟のために指導する	・小テストでも得点確認	80%以上			
4 継続	朝読書	全児童 国語	水の朝	・全学級で朝の 15 分間集中して読書をする。	決まった本をしっかりと読んでいるか	90%			
5 継続	ICT 機器の有効活用	全教員 全教科	随時	ICT 機器の効果的な活用を推進する。AI ドリルの効果的な活用	年 3 回中 1 回の授業観察時	100%			
6 新規	家庭学習の定着と拡充	全児童 全教科	毎日	・ICT を活用した宿題や紙のドリルとの効果的な併用を行っていく。 ・総合や生活科で児童がプレゼンする場面を設定	毎日の家庭学習状況の点検と実施率把握	90%以上			

7 新規	算数科 習熟度別少 人数授業の 充実	算数 (全学年)	通年 毎日の 授業	【指導者体制】 担任と習熟度別担当教諭 【取り組みのねらい】 区学力テスト正答率より 習熟度別グループごとに 目標平均値設定・半期固定 ○各グループの指導者が 担当児童の学習理解に責 任をもつ。 A:経験年数の若い教員 B:経験年数中位の教員 C:学年主任等 D:算数担当教員 ※低学年は低位層を別教 室で少人数指導	◇各単元末評 価テストのグ ループ別集団 平均点の市推 移(てんまる学 年集計単元別 学習状況一覧 表)による 点検：校長 確認日 ・ 7/20・12/20	◇単元評価テス ト全学年の通年 平均点 80 点以 上 【学校全体】 A:85 以上 B:80 以上 C:70 以上 D:個別目標	自己評価の際に記入
8 新規(未定)	プレイバッ クタイムの 方法変更 ※実施未定 7 月 末 まで の 現 行 の 校 内 策 の 効 果 を 検 証 し て 実 施 検 討	3 年 以 上 の 学 年 ※低学年 は母学級 で行う	月・火・ 木・金の 3:00～ 3:30 の 30 分	【指導体制】 学年＋副担 ○低学年： ・全児童対象・既習内容 のプリント・ドリル 1 枚程度を 行い完全正答を担当がチ ェックし順次下校。 A:各学年指定の特別教室 に移動しプリント・AIドリルの 指定範囲を進める。学年 副担任等が終了を確認し た児童から順次下校 B・C:算数授業と同じ教室 で A と同様に行う D:算数授業 A 担当教諭が 指定範囲の内容を指導し た後、進めさせる	上記同様	上記同様	

9 新規 (未定)	9月以降の 時程表一部 変更	全学年	別紙	※現行の校内策の効果を 検証して実施検討	上記同様	上記同様			
-----------------	----------------------	-----	----	-------------------------	------	------	--	--	--

重点的な取組事項－ 2		授業力向上 生活習慣の確立			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・授業力の向上 ・遅刻者の減少 ・いじめ未解決案件 0 件 ・不登校の未然防止対策		・授業がわかる児童を全体の 80% ・遅刻者を 10%減少させる ・いじめ未解決 0 件 ・不登校の未然防止対策	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
・授業力向上	・授業がわかる児童を全体の 80%以上にする。 ・足立スタンダード虎の巻を活用した授業 90%以上実施	・若手研修会、主任研修会などの校内での取組を充実させ、意図的、計画的に実施する。足立スタンダード虎の巻をベースにした授業をつくる	自己評価の際に記入		
・授業力向上 ～その 2～	・各職層ごとの役割を明確にした授業公開(教科指導専門員による指導活用)と若手教員指導	教諭層・・・年 3 回以上の公開授業の設定と 5 回以上の参観 主幹・主任教諭・・・年 2 回以上の公開授業の設定と年 3 回以上の若手教員公開授業参観と指導			

・遅刻者の減少	・遅刻者を10%減少	・日々の生活指導において遅刻についての指導を行う。 ・時は金なりの気持ちを育て時間のロスは将来的に自分に不利益になることを指導。			
いじめ未解決0件	・年度をまたいで未解決案件を0件とする	・全教職員がいじめは絶対にいけないという点を徹底していく。共通理解共通行動に基づきいじめの未解決案件は0件にするという強い意志をもって指導にあたる。			
不登校未然防止対策	・完全に不登校になることを防ぐための方策をうちたてる	・SC、SSWと常に連携をとり不登校の校内委員会を定期的に開催して年間欠席日数30日前後の児童に対してのフォロー体制を確立する。			

重点的な取組事項－3		幼保小中連携教育の充実と道徳心の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・幼保小の連携として授業交流、給食交流を実施する。 ・小中連携では年間7回の研修をとおして互いの校種の理解を深める。		・10月の宿泊学習中に授業交流と給食交流を実施 ・ICTモデル地区としての取組を2年目として充実させる	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保育園との交流	・保育園の保護者会参加 ・給食、学習交流 ・避難訓練の実施	・年長保護者会での校長講話の実施（各園1回） ・10月に給食と学習交流	自己評価の際に記入		

中学校教員との交流	・準備委員会 2 回 各校 1 回ずつ授業公開・研究	・4 校全校での研究授業実施 (各校 1 回ずつ)			
道徳心の向上	・道徳授業アンケートを 児童からとり、道徳授業が役立った回答を 90%以上目標	・日々の道徳授業の工夫をする。道徳授業の基礎基本を学ぶ。道徳的価値の大切さを児童が理解できるようにする			

重点的な取組事項－４						創立６０周年 魅力あふれる鹿一小 ～自分が大切にされていることを実感できる学校～					
A 今年度の成果目標			達成基準		実施結果		コメント・課題		達成度		
朝起きた時に、来ること自体が楽しみな魅力あふれる学校づくり			アンケート「学校生活は、児童にとって魅力あるものとなっている」項目の肯定的評価 90%以上		自己評価の際に記入						
B 目標実現に向けた取組み											
項目		達成基準		具体的な方策		実施結果		コメント・課題		達成度	
校長ミッション ～全児童がやりたいときに参加できるお楽しみ活動～の設定		月１回程度の設定 月曜ズーム朝会時に発表		休み時間等に自由に取り組めるお楽しみ活動を校長が工夫し全体に提示する							
主体的に児童が創る特別活動(全校)の創出		初年度として前・後期に１回ずつ設定する		特活部で起案し、児童会・集会委員会等で企画・進行する							

「ほかほか言葉」でいっぱい为学校	「自己肯定感」に関わることの達成 90 パーセント以上	○各学級教室での「友達のいいところ」「友達にありがとう」の掲示 ○校長等による朝会等での「友達にありがとう」の紹介	
しかいち読書奨励賞	区学力意識調査 「1 月に 2 冊以上本を読む」80%以上への UP	足立区立図書館作成の「あだち読書通帳」(50 冊記録帳)を終了した児童称賛する機会の設定と紹介 1 年(3 冊)・2・3 年(2 冊)・4 年以上(1 冊)ごと	
60 周年記念式典	60 周年記念集会をとおして児童の愛校心を育む	鹿浜第一小学校のこれまでの歴史や変遷を知り、学校への感謝の思いを道徳授業を中心に育む	

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）